

40歳を迎えた27期生の皆さんへ

今年度、40歳を迎えられた第27期卒業生【平成16(2004)年3月卒業】の皆さんに向けて、当時の担任団の先生方からメッセージをいただきました。

先生方には同窓会より連絡を取らせていただき、還暦になった皆さんに向けて、字数も内容も特に決めず、自由にメッセージを書いていただくよう、お願いをしました。

皆さんそれぞれの高校時代、そして当時の先生方を思い出しながら、どうぞご覧ください。

右の写真は、27期の皆さんが卒業の際に「卒業記念品」として学校に贈った、教室用の電波時計です。さすがに20年を経て、すべてというわけにはいきませんが、まだ多くの時計が元気(?)に金井高校の時間を刻んでいます。

また、皆さんのために澤田先生が作ってくださった、入学式・卒業式用の呼名簿フォルダの貼り絵も使われ続けています。



3年 1組 畑 郁 徳 先生

27期生の皆さん、ご無沙汰しております。お元気ですか?この企画を頂いて、27期の卒業アルバムを引っ張り出してきました。もし、手元にあれば見ながらこの文章を読んでください。今、日曜日の昼下がり、陽が窓から差し込んでいます。

まず校舎点描。中庭の色鮮やかな緑。次のページは笑顔一杯な学年の集合写真。その時、皆さんは何を考えていたのかな。次のページは、教員の顔、お世話になった先生方は今何をしているのでしょうか。そして、各クラスのページ。そう私は、1組の担任だったのです。思わず卒業式のように呼名していました。いろいろなことが走馬灯のように蘇ってきました。更にページは続きます。合格手続き、きっと高校生活への不安と期待で胸膨らませていたのでしょうか。入学式のページ。行事として遠足。修学旅行は五島列島に行ったのでした。その後、長崎を訪ねた方はいますか?星が綺麗だったですね。陸上競技大会、球技大会、金井祭。音楽祭の練習期間は、学校中歌声が響いていましたね。剣道大会。部活動のページ、今も運動や演奏などを続けている方はいますか?まさに皆さんは青春を謳歌していたのですね。

高校を卒業して22年が経ちました。忙しい日々の中、卒業アルバムを眺める。過去には戻れませんが、そんなひと時も大切だと思います。人生でのブレイクタイム。ふと気付けば、もう陽も翳ってきました。さあ、アルバムをさかかなに、ビールでも飲みましょうか。

皆さんの今後の更なる活躍を期待しております。ちなみ私は、金井高校の近くの高校で、シルバー臨任として教員を続けています。生徒からは、「じいじ」と呼ばれながら。

3年 2組 森 秀 明 先生

皆さん、ご無沙汰しています。このページを見ているということは、森が現在、同窓会長をしているのはわかっていると思いますが、今回の金井高校50周年では、27期生の多くの皆さんにも協力してもらいました。こういう場ではありますが、感謝の気持ちを伝えておきたいと思います。

さて、右の写真を見て、「おっ、これは!!」と思ひ出す人は、どのくらいいるのでしょうか?そう、もちろん、27期が修学旅行で行った、長崎県五島列島の福江島の民芸品「バラモン風」です。これは、金井高校が修学旅行で福江島に来た記念に、と地元の観光協会からいただいたレプリカなのですが、実は、今も金井高校の応接室にしっかりと飾られています(ちなみに、赤坂先生と一緒におみやげに買った本物もまだ職員室にありました)。



学年の修学旅行の行先を決めるとき、皆さんに行きたい方面を聞くアンケートをしました。選択肢に「沖縄」と「北海道」が無かったのは覚えていますか？結局、一番多かった「九州」が順当に行先に決まったのですが、そこには修学旅行係の赤坂先生と森の策略がありました。というのは、「選択肢に「沖縄」、「北海道」を入れなければ、残った中で一番遠い「九州」が一番多くなるだろう」と。実は、そこには、「沖縄や北海道は卒業後も個人旅行で行くだろうから、せっかくの修学旅行はそれでないと行かないところに連れて行ってあげたい」という気持ちがありました。そこに、さらに当時、修学旅行誘致に力を入れていた福江島の「一島一校（島で一度に受け入れる修学旅行は一校に限る）」ルールで、「島全体でひとつの学校をもてなそう」という話を聞いて、「それなら五島列島（福江島）にしよう」となったのです（もちろん、「被爆地」長崎での平和学習も重要な要素でしたが）。

その後、森は何度も沖縄修学旅行に行く機会がありましたが、遠く離れた地に修学旅行に来たのに、行く先々で会うのは「神奈川県立」の他の高校ばかり、という状況を見るたび、27期での五島列島は良い選択だったなと思います。ちなみに、金井では2つ下の29期がやはり五島列島の別の島に行きましたが、50年余の歴史の中でも、その2回のみです。

皆さんにとって、福江島への修学旅行はどうだったでしょうか？どんな思い出ができたでしょうか？

五島列島ならではの思い出ができていれば嬉しいですね。

ちなみに森は、今もコシの強い「五島うどん」や「鬼鯖鮓」が好きです（サツマイモの「かんころ餅」というのもありましたね）。



さて、今回はここまで。

まだまだ話題はありますが、次は10年後の50歳になったときにね。

ただ、今回は2年生の時の話題になってしまったので、3年2組の皆さんには金井祭の「ABK(エビケイ)マート」の時の写真でかんべん。

※ネット掲載なので画質を落としています。元の写真が欲しい人は同窓会に連絡ください。

3年 3組 赤坂 昌幸 先生

金井高校に赴任したのは、私がちょうど40歳の時でした。27期生の君たちが、その年齢になったと聞き、改めて時の流れの速さを感じます。でも、君たちと過ごした3年間を思い起こしながら、発行していた学級通信を読み返しているうちに、つい最近のことのように次々と記憶がよみがえってきました。

生物実験：金井は実に多くの生物実験を実施している学校だったので、君たちも1年の生物でほぼ毎週、年間24回以上の実験をやったはず。中でも、ショウジョウバエを使った遺伝の法則の実験をやっている高校はなかなかないと思います。その他にもウニの発生、牛の眼球の解剖など貴重な実験を数多くやりました。現在もWeb Pageに記録が残っているので、探してみてください。

1年3組：入学最初の行事の遠足は山北の棚沢山荘キャンプ場でカレー作り。「カレーコンテスト」なんぞをやったので、いろんな味のカレーを食べさせられました。金井祭企画は「演劇」発表。教室で二日間に3本の演劇を発表しましたね。剣道大会では、1年の部で優勝。クラス対抗大縄跳び大会でも優勝しました。

2年3組：4～7月、アイオワ州から身長183cmの男子留学生が来ました。みんな適当な英単語を並べてなんとかコミュニケーションを図っていました。当時はスマホ翻訳がなかったから大変でしたね。でも、東京班別自主行動にも参加し、陸上競技大会にも出場しました。砲丸投げに出場して上位の記録だったと記憶しています。その陸上競技大会は全員の頑張りによって総合3位・2年では1位の成績でした。

金井祭企画はストラックアウト・アームレスリング・10秒Just、3競技の「筋肉番長」。小学生や保護者との腕相撲が盛り上がりました。剣道大会は、A、Bチームともに3位。これはこれでスゴイ。

3年3組：頭を使うより筋肉を使う方が好きな筋肉男、何よりも画面に向っている時間が長いゲーマー、夜な夜なあやしいサイトを探しているネットマニアなど様々な物理選択の男子ばかりが集まった男クラでした。最初のHR、君たちの残念そうな顔を見て、「男クラも結構楽しいから、男クラじゃないとできないことを楽しもう！」と言いましたが、その言葉は必要ありませんでした。

「陸上競技大会」は1組に1点及ばず2位。しかし、男クラなので女子種目の点数は無く、全22種

目中、出場した 13 種目の点数だけで 2 位だったことを考えると「君たちはスゴイ！」

金井祭企画は、フランクフルト&タコ焼き屋+女装男子との写真屋「おかまランド」。お母さん達も大喜びで女装した息子と写真撮っていましたね。売れ残ったフランクフルト、どうしたか覚えていますか？答えは、「フランクフルトの熱伝導率実験という名目で後日全部食べた」です。男組は、そのパワーといい加減さでとても盛り上がった 1 年間でした。

ところで、学級通信の「Stage 103」「Stage 203」「男組」を今でも持っている人はいるでしょうか。もしいたら、お年玉をあげましょう。

この他、修学旅行や部活動など、思い出は尽きません。君たちと過ごした金井時代は、私の教師人生の中でもとりわけ熱い 3 年間だったようです。これも 27 期生の君たちのおかげ、感謝の気持ちでいっぱいです。

現在、私は臨任という形で県立高校の理科教員を続けているので、どこかで保護者の君たちと会うこともあるかもしれません。そんな再会を楽しみにしながら、君たちの人生の応援をしていくことにします。

赤坂 昌幸

3 年 4 組 荒川 吉彦 先生

“Happy Birthday Sweet Forty”

40 歳になった人も、これから 40 歳を迎える人もおめでとうございます。40 歳というと私の感覚では人生の振り返り地点という気がします。大きな夢を持つというよりも、どのように残りの人生を過ごすか考え始める頃ではないでしょうか。仕事を持っている人も、家事に勤しんでいる人も、これからの人生を悔いのないように過ごしてくれるよう願っています。

私は中学生の終わり頃から音楽に興味を持ちはじめました。私見ですが、20 世紀は「歌曲」の時代だと思っています。音楽の歴史のなかでこれだけ素晴らしい歌が生まれた時代はないと思います。もちろん音楽史的には現代音楽やジャズなども重要ですが、1950 年代から始まるポップスやロックと呼ばれる音楽の上質のものは、ただの流行りの音楽というだけではなく、芸術性も兼ね備えたものであり、それを「歌曲」というジャンルに含めるならば、ベートーヴェンやシューベルトの歌曲にも決して劣るものではないと思っています。

さて、そんな音楽のなかには年齢を歌ったものがあります。例を挙げてみましょう。

尾崎豊「15 の夜」

チャック・ベリー「Sweet Little Sixteen」

ジョニー・バーネット／リング・スター「You're Sixteen」

ニール・セダカ「Happy Birthday Sweet Sixteen」

ジャニス・イアン「At Seventeen」

南沙織／森高千里「17 才」

私の知る限り、年齢を曲名に織り込んだ有名な曲は、あとはザ・ビートルズの「When I'm Sixty-Four」と風の「22 才の別れ」くらいであり、他にはありません。

では何故 15 歳から 17 歳までが歌に描かれるのか。そんなに難しい問いではないと思います。人生のなかで一番純粋に人に恋することができ、そのせいで喜んだり悲しんだりもし、あるいは多感で傷つきやすく、自分のなかではどうにもならない感情が入り乱れたりしている時期だからではないでしょうか。そんな大事な時期のあなたたちと過ごすという大切な仕事ができただけに感謝したいと思います。

そういえば、アンジェラ・アキに「手紙～拝啓十五の君へ～」という歌がありましたね。悩みを持つ 15 歳の「僕」が未来の自分に向かって手紙を書き、それに対して大人になった「僕」が返信するという内容の歌です。15 歳の「僕」は「誰の言葉を信じ歩けばいいの？」と問いますが、大人になった「僕」は「自分の声を信じ歩けばいい」と答えます。もし、若い頃のあなたが何か悩みを持ち手紙を書いてきたら、あなたはどんな返事を書いてあげますか？

3 年 5 組 仁科 信子 先生

27 期生の皆さんへ

2026 年 1 月 1 日、カーラジオから森山直太朗の「さくら」が流れた。

音楽の持つ力は素晴らしく、卒業式唱歌とあれば格別で、一瞬にして時が遡り 22 年前の卒業式の光景が改めて蘇った。

見慣れた擦り切れそうな、テカリのある制服姿には個性が溢れ、3 年間決して平坦ではなかった道のりを、立ち止まりながらも歩み続けてきた皆さんの姿は、何より誇らしく、頼もしく感じたことを思い出す。

教室に差し込んだ朝の光、チャイムの音に急かされながら席に着いたこと、友と語り合った何気ない放課後――。

あの頃の一日一日は、当たり前のようにいて、今思えばかけがえのない時間だったのではないだろうか。

行事に向けて力を合わせた日々、思うようにいかず悔しさを味わった経験、笑い合い、励まし合った瞬間の数々がエピソードとともに脳裏に浮かぶ。

そのすべてが、皆さんの心の奥に確かに刻まれ、知らぬ間に人生の土台となってきたのだと思う。

卒業の日が近づいたある夜、浴槽に入って卒業式のことを考えたらスーッと、涙が一筋頬を伝った。

2月の自由登校期間は、私にとって「当たり前の毎日が少しずつ遠ざかっていくための準備期間だ」なんて思ったのもその時だ。

「かないはいなか」なんて言われていたけれど、そこに通う皆さんは純朴で何事にも一生懸命で愛すべき生徒たちだった。

あれから22年、そして40歳という大きな節目を迎えられたこと、心よりお祝いさせていただきます（皆さんとの年の差22歳、あの時の私40歳）。

仕事や家庭、人との出会いの中で積み重ねてきた経験の一つ一つが、今のあなたをつくり、これからの歩みを照らしていくはずです。

あの頃に育んだ思いやつながりを胸に、これからの人生も、健康を第一に自分らしく、しなやかに歩いてください。

皆さんの未来が、温かさと実りに満ちたものであることを、心から願っています。

<中庭エピソード>

七夕に向けて学校の近くの玉泉寺さんから太い竹を頂き、学校までみんなで運んで、願いが書かれたみんなの短冊を飾り、中庭の中央にある大きな1本の木に飾りましたね。立ち上げる時は各教室の窓から中庭に向かって「ささの葉さらさら～」なんて歌ってくれました。いろんなことが、楽しかったな。

金井高校魂は永遠に不滅です。

1年2組

2年2組

3年5組 担任 仁科 信子

3年 6組 澤田 陽子 先生

40を迎える金井人へ。

「よーっす」これは主に男の子が使う金井語で、「おはようございます」の略語。「っす」の場合もある。乱暴なように聞こえるが、品よく礼儀正しく使う。例えば廊下で、階段の途中で、会えば必ず発せられる。世界一短い、気持ちの良い挨拶といえる。金井の生徒は極めて誠実で、親切、優しい心根の青少年だ。陰でやんちゃもしていたかもしれないが、何せ、修学旅行先の五島列島の防波堤で、“サスケ”のそり立つ壁ごっこをやってしまうくらいの純な人たちだ。普通、高校の修学旅行では愛を語るよね？

金井での授業は楽しかった。乾いた砂が水を吸うように、脳みそが知識を吸収する音が聞こえてくるようだった。どうしても平均点が取れないN君に、「次のテストではあなたが点取れるような問題を考えてあげようかな。」なんて、教師にはあるまじきことを言ったら、「いいや、俺は自分の力で平均点取るから先生はいつも通りに問題作ってよ。」と、まっすぐな返答をしてきた。もちろん私の言葉は冗談だったのだけれど、この少年の正しさに自分が恥ずかしくなった。

こんな人たちが社会に出たら、どんなに強欲な、悪賢い人に騙されて、痛い目を見るのではないかととても心配だった。その金井人がここで40になる。卒業してから22年、社会に出て、辛い思いをしたかな、意地悪をされたかな、侮辱を受けたりしなかったかな。そういうことも世の中にはある。でも、生まれてから18年間で身についた知恵、そして物事を面白いがる‘金井スピリット’は、あなたたちを大いに助けてくれたはず。これまでの自分は正しかったんだ、と、度胸をつけて、最強の40代を過ごしてほしい。

実は、この面白がりを、英語でserendipity「セレンディピティ」といいます。これは、楽しいことを見つける才能のことです。金井人はみんなこのタネを持っている。あとは水やりをして、育てればいいの。私は66歳になったけど、ステージで歌を歌ったり、雑文を書いて本にしたり、飲んだり、食べたり時々アルバイトで英語を教えたりして毎日実に愉快です。金井での毎日がとても楽しかったので、私のタネはあのときによく育ったと思う。先生を気遣って、思いやってくれる、かわいい生徒たちでした。忘れがたい金井人。

文化祭のかき揚げ丼、あんまりウケずにがっかりさせてごめん。O157が蔓延して、あの頃の飲食は保健所の規制がなかなか厳しくて面白いことができなかったのです。せっかく「飲食」のくじを当ててくれたのにね。今ならみんな食べたいと思うよね、かき揚げ天丼。職員室の受けはよかったんだよ、と、今更だけれど報告しておく。三角巾頭にかぶって出前をしてくれたY子ちゃん、ハンカチで汗ぬぐいながら、「売れたよ、もっと売ってくる。」ってお盆に載せて中庭に走っていった。あの時はとても頼もしかった。普段はおとなしいのに。このUber Eatsのおかげで赤字が出なかったんだよ。ね、こんなに気持ちの良い人の集まり。いい学校でしょう？ではまたいつかね。「あしたー。」

澤田 陽子